



sponsored by タウンワーク **WORK**

ファイナリストインタビュー

Campus Life+1 に出て変わったこと

昨年度開催された「Campus Life+1 2018」において、約4万1千通の応募の中から見事選ばれたファイナリストたちのその後をインタビュー。Campus Life+1を経てどのように彼らが変わったのか聞いてみました。

自分の夢に真摯に向き合えた 演劇を続ける勇気が持てました

練習時間を工夫して 複数の劇団の公演に出演

「普段の大学生活では出会えない人たちと出会えたのは、私にとって大きな財産です」

そう話すのは、昨年キャンパスライフ+1に出演した小川さん。「社会人でも続けられる持続可能な劇団をつくりたい」という夢で、見事ファイナリストに選ばれた。多くの人の前で堂々としたプレゼンを披露した小川さん。そんな彼女がこのイベントに参加し、最も大きく変わったのが自分の考えに勇気が持てるようになったことと話す。

「当日のプレゼンに向けて前日から練習

習をしていたのですが、なかなか自分の伝えたいことが理解してもらえませんでした。悔しくて涙を流したほどです。それでも本番、多くの人が私の夢に耳を傾けてくださり、審査員の方々が受け止めてくださったことに勇気が持てました」

実際、8月と9月に2つの学生演劇の大会と一般の劇団の公演に並行して出演。忙しくても練習時間を工夫することで、活動の幅を広げられることを実感した。

「他のメンバーも院試の勉強と並行して挑んだんですが、大会で賞をいただくことができました。私も来年の春から社会人になりますが、演劇を続ける自信になりました」



小川 諒子さん(22歳)
早稲田大学

政治経済学部 に所属。家庭教師や野球場の売子アルバイトに勤んでいる。

Campus Life+1で得たもの

「他のファイナリストの方々が語っていた女子ラグビーや津軽三味線など、自分の知らない世界に触れることができた刺激を受けました。その影響を受け、最近はずっと新しい経験に挑戦しようという気持ちで演劇にもつながるのではと思っています」



台本を覚える小川さん。自分が立ち上げに携わった劇団だけではなく、外部の劇団のオーディションを受けるなど、積極的に活動をしている。練習の質を高めるために、「これ以上はできない」と判断したら練習時間をスパッと切り上げたという。

応募資格

●現在、大学(院)生、短大生、専門学校生、高校生、高等専門学校生、高等専修学校生の方(20歳未満の方は保護者同意の上で応募ください) ●日本国内に在住している方。国籍は問いません。 ●団体での応募も歓迎(最終選考出場は1チーム5人までとする) ●2020年3月に東京にて開催予定の最終選考に参加いただける方※詳細は一次選考合格の方へご連絡の際にお知らせいたします。 ●過去に「Campus Life+1」にご応募いただいた方の応募も可能です。

注意事項

●応募における個人情報は主催者及び関係会社のみ開示され、今回の企画以外に使用することはございません。●本人(チーム/団体)情報に誤りがある場合は、合格が取り消される場合があります。●可否や選考基準に関するお問合せにはお答えできません。ご了承ください。●選考通過者の方にはこちらからご連絡いたします。

ご応募はコチラから! 応募はWEBサイトで受け付けています。

右下のURL、2次元バーコードからサイトにアクセスし、必要項目をご記入ください。

みんなの夢を
随時更新

エンタク

検索

<http://entac.jp/>

応募期間: 2019年8月1日(木) ~ 2020年2月2日(日)



主催: **EVAN!**
enjoy talking campus

協賛: タウンワーク **WORK**

お問い合わせ先: 学生コミュニティサロン「エンタク」
TEL052-241-8100
(受付時間/平日9:00~18:00)

RECRUIT